

第一日曜日  
教会学校 9:00～  
主日第一礼拝 9:00～  
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日  
教会学校 9:00～  
聖書を読む会 9:00～  
主日礼拝 10:30～

# 日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2018 (平成30年) 11. 11

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会  
毎週水曜日 10:30～  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

## 「神に顔を向けよ」

牧師 松谷 祐二

### 創世記 第四章一～一六節

さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもつてカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。主はカインに言われた。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求めぬ。お前はそれを支配せねばならない。」

カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。主はカインに言われた。「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」カインは答えた。「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」主は言われた。「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。今、お前は呪われる者となった。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる。土を耕しても、土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。お前は地上をさまよひ、さすらいの者となる。」

(新共同訳聖書)

神から離れて自立したい、という誘惑に身をゆだねてしまった人間は、楽園から追放され、神と共に居られなくなつた——という物語は、アダムとエバの子孫の話になつて続いていきます。最初の二人は問題があつたが、その子らは親の姿を反面教師にして、神のもとに帰つた……でしょうか。いいえ。アダムとエバが罪を犯したように、その

子どもたちにも罪が暗い影を落とします。カインがその兄弟アベルを殺してしまうのです。

聖書はアダム、エバ、カイン、アベルといった固有名詞を挙げていますが、それら個々人が何をしたか、誰に責任があるか、歴史上の人物を批評するように読み解こうとしても、あまり良いことはないと思います。これらの人物を通して描き出されているのは、今のわたしたちであり、このわたしたち、と読むときにこそ、物語は真価を発揮するのでないでしょうか。

カインは激しく怒り、ついに弟を殺してしまいましたが、そのきっかけは、「主はアベルとその献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物に目を留められなかった」ということでした。(やや脱線ですが、楽園を出ても、神との関係は続いているのです！)しかし、楽園にいた最初の頃とは違い、神と人間との関係は、どこか緊張をはらんだものになっていきます。二人が同じく礼拝をし、それぞれ献げ物をしたのに、神はアベルの方だけに良い反応を示したというのです。となると、神の不公平こそが問題の原因では、という見方もできそうなどころです。

しかし考えてみると、カインは「自分の献げ物に、主は目を留められなかった」と、どうやって知つたのでしょうか。神が見える姿で現れて、献げ物の一方だけを喜んで食べた、とでも言うのでしょうか。わたしの想像ですが、カインはこの礼拝の後ただちに、神は自分にはさっぱを向いた、と感じたのではないと思ひます。その後の生活を続ける中で、仕事や家のこと、健康や財産のこと、何もかもがうまくいかない、というような経験をしたのでないでしょうか。ところが、弟の生活は、自分とは違つて何もかも、妬ましいほど順調で恵まれていくように見える。礼拝や献げ物も、一回だけだったとは限りません。何度も神を崇め、祈願もしてきたのに、あいつばかりが良い目を見る——今のわたしたちが「神は自分には見向きもしてくれない」と感じて怒るとしたら、こうした経過の中でだと思ふのです。そういう怒りを感じたとき、わたしたちならど

うするか。「主よ、神よ！ なぜわたしには恩恵をくださらないのか。こんなにお仕えし、嘆願しているのに！」と、神に向かって叫ぶでしょうか。そうです、まさに、そうすれば良いのだと、神は仰います。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。」面と向かつて、わたしたちに抗議を申し述べよ、それを聞こう、と。

しかし、カインがそうしなかつたように、かえつて神から顔を背けたように、わたしたちも往々にして、神に向かって叫びません。抗議の叫びのよくな祈りにも、神は耳を傾けてくださるかもしれないのに、わたしたちは、本気で神に向き合おうとしない。それ以上期待しないのです。その代わり、怒りの矛先を、他の誰か、何かに向けます。八つ当たりするのです。それに歯止めが効かなくなると、カインがアベルにしたようなことを、わたしたちもしてしまふ。ここに、わたしたちの罪があります。殺人はもちろん重大な罪ですが、仮にそこまで至らなかつたとしても、根源的な罪は、わたしたちが人のことばかりを見て、神に顔を向けないということなのです。神はわたしたちのそういうひねくれた所も重々承知で、罪の誘惑に負けるなど、警告さえしてくださるのですが……。「正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求めぬ。お前はそれを支配せねばならない。」

イエス様のことを思ひます。十字架にかけられたイエス・キリストのことを。この方は十字架の上で、自分を裏切つた弟子たちを呪つたでしょうか。自分を捕らえ、有罪とした祭司長や議員たちを、「十字架につけろ」と叫んだ群衆を、総督ポンテオ・ピラトを呪つたでしょうか。いいえ、彼らの方に顔を向けてはおられません。ただ大声で、神に面と向かつて叫ばれるのです。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになつたのですか」と。そしてこの同じ方が、やはり神に顔を向けて言われるのです。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」と。

これこそが、真実に神と共に居られる人間、神の前に正しい人間の姿なのだと思います。

### 第四十一回教団総会報告

牧師 松谷 祐二

十月二十三日(火)～二十五日(木)、池袋ホテルメトロポリタンにて、第四十一回教団総会が行われました。日本基督教団の全国千七百余の教会、十七教区からの代表四百人ほどが集まる、二年に一度の会議です。今回、私は補助書記(准議員)という役目を仰せつかり、教団総会に参加してきました。

日本基督教団は財政上大変厳しい状態にあり、今までと同じ運営方法ではあと何年もしないうちにやっていけなくなる、という指摘が前回の総会からすでに出されておりました。今総会でもトピックの一つになりました。全国の諸教会に、さらなる献金を呼びかけよう、という総会議長方針も出されてはいるのですが、私見では議員定数や諸々の会議のコストを減らすという具体的な策も必要でしょう。他方、伝道に注力することを目的とした組織・機構改正について「協議会」の時間が設けられ、賛否さまざまな意見が活発に述べられました。しかし、機構改正の実施まではまだ調整に時間がかかりそうです。

今総会で特に目を引いたのは、教団総会議長・副議長選挙(任期二年)の結果でした。教団総会議長は、石橋秀雄牧師が二〇一〇年以来四期八年を務めて来られました。二度の投票(一度目は過半数の得票者がなく、再投票となった)の結果、票が大きく動き、五期目も議長として選出されま

した。石橋先生自身は今回こそ重責から解放されると思っておられたのか、「動揺している」と正直に仰ったほどです。副議長選挙では二度の投票でも過半数得票者がなく、三度目、高票者二名の決選投票で、久世そらち牧師(北海教区総会議長)が、初めて教団総会副議長に選出されました。

この結果が目玉されるのは、あくまで私見ですが、石橋議長と久世副議長とは、従来の発言や行動からすると、もの考え方がかなり違っていると見られるからです。石橋議長はいわゆる「福音伝道」、広く人々をイエス・キリストへの信仰に招き、洗礼を授け、ともに聖餐にあずかり、教会を形成するということ、オーソドックスな教会の道筋を重視して来られた方です。他方の久世副議長は、同じキリスト教でも、この世の政治的・社会的な諸問題——例えば戦争責任ですとか、沖縄の基地問題、差別や格差の問題、女性や性的少数者、マイノリティの権利の問題等々——に、教会はもっと積極的に関与すべきとする立場、教会の従来の教職制度や聖餐の在り方等にも、批判的な再検討を求める立場を代表すると見られています。キリスト教・教会の存在意義を、どういふ働き・奉仕に見出すかという点で、意見が異なるように見受けられるわけです。

この新体制で、今後二年間の日本基督教団の舵取りがどのようになされていくか。選ばれた方々に知恵と力が授けられ、主イエス・キリストの御心になつた教会となつていけるように、御導きを祈るものです。

### 報告

\*十月十四日(日)の教会学校、主日第二礼拝では、東京神学大学院二年の佐藤由子神学生に説教して頂きました。佐藤神学生のプロフィール

日本基督教団仙台南伝道所出身、東日本大震災をきっかけに献身。二〇一五年四月東北学院大学文学部総合人文学科(旧キリスト教学科)編入学。二〇一七年四月東京神学大学院入学。現在大学院二年 聖書神学専攻。

なお、当日の席上献金は、神学校日献金として東京神学大学院に送金しました。

\*十月二十三日(火)～二十五日(木)、第四十一回日本基督教団総会が行われ、松谷牧師が准議員として出席しました。三役の選挙では、石橋秀雄議長、雲然俊美書記が再選、久世そらち副議長が新たに選出されました。

\*各献金(熊本・大分地震被災教会支援献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金、オルガン献金)へのご協力を、引き続き宜しくお願いします。

### 《各部報告 十月度》

#### 成人会

日時 十月二十一日 主日礼拝後  
場所 教会会議室  
出席者 五名  
担当・開会祈祷 高橋優美子姉  
内容

先月から引続き箇所、アモス書七章から九章及びオバデヤ書を輪読後に、担当者による、特徴・執筆目的・構成他を聞く。その後牧師による解釈の説明により理解が深まった。今回は所用のため少人数でしたが恵まれた時間となりました。

次回、十一月休会とし

十二月十六日、ミカ書一章から七章担当者、木村信太郎兄

黙祷により閉会

#### 婦人会

日時 十月二十八日 主日礼拝後  
場所 教会堂会議室  
出席者 八名

開会祈祷 菊池才知子  
閉会祈祷 全員順次小祈祷

内容

一、聖書研究  
「サムエル記 上」一章一節～二章十一節

一章 サムエル誕生の経緯は、「創世記」十七～十八章のアブラハムと妻サラの子イサクの誕生、新約聖書「ルカによる福音書」一章に述べられた洗礼者ヨハネ誕生の経緯と類似している。エルカナの妻ハンナは神の恩寵によりサムエルを生むことが出来た。ハンナは祭司を通して息子を神に奉げることが誓う。

二章一～十一節 サムエルは祭司エリのもと、シロの聖所で神に仕えつつ成長した。

次回 十一月二十五日「サムエル記 上」二章十二節～四章一節まで

二、その他打合せ 長らく礼拝に出席できないうでいる姉妹達にクリスマスカードの発送準備

